

世界の国から④8

ジュネーブ生活と ICT 利活用

在ジュネーブ国際機関日本政府代表部一等書記官

加藤 義行



世界各国の事情を、総務省からそれぞれの国の日本大使館に出向している方々に紹介していただくシリーズです。その国の歴史、自然、生活などのほか、郵便局の実情や通信・放送の事情、大使館での経験談、エピソード、観光、グルメ情報なども伝えていただきます。

スイスに関してはこれまで何人かの先輩アタッシェの方々が寄稿されており、歴史や郵便制度なども執筆されており、私にはジュネーブにおける日常生活と、様々な所で利用されているICTの現状について、事例を交えながら紹介していきたいと思っています。

1 スイスの物価・通信事情

ジュネーブはスイスの最西端に位置する人口二十万人ほどの小さな都市であり、数多くの国際機関が集まっています。街は交通網も非常に発達しており、道路も毎日きれいに清掃されています。緑も多



く、非常に過ごしやすい都市です。多くの国際機関が存在していることから出張者や国際会議も多く、ジュネーブ空港は小さいながらも多くの国と繋がるハブ空港となっています。通信網も日本同様、非常に良く整備されており、携帯電話もジュネーブ市内は4G/LTEで繋がる所もかなり増えてきており、快適です。ただジュネーブの物価水準は非常に高く、生活する上で驚くことも多々あります。駅などで小腹がすいたので手のひら程の小さなポテトチップスでも買おうかと手を伸ばせば五フラン（約五百五十円）、ラーメンでも食べようものなら一杯三十フラン（約三千三百円）程かかります。

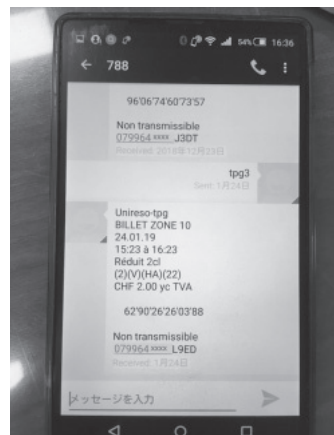
こうなるとスイス国内の携帯料金も気になるところです。スイス国内の通信会社はSwisscom、Sunrise、Salt Mobileといった大手三大キャリアに加え、多くの格安SIM提供事業者が混在しており、日本と非常に似ている環境の印象を受けます。日本と違うのは、フランスやイタリア、ドイツといった国々と陸続きのため、通信環境は国内のみならず、隣接国に行った際の国際ローミングの料金など

も考えなくてはならないといった所でしょうか。特にジュネーブはスイスの最西端に位置しており、ジュネーブ市内からフランス国境までは車を使えば十分程で到達してしまいます。

料金プランとしては、日本のような家族割、●●割といったものはあまり見られず、通話料と通信料をパッケージにした料金プランが多いです。格安SIMのプリペイド携帯を利用する場合、「一か月のデータ通信パッケージ(国内)」、「国際ローミングデータ通信パッケージ」等を自分でカスタマイズする形を取ります。具体的には、一か月のデータパッケージ2GB分を購入、旅行に行くので国際ローミング枠1GB（一か月分）を旅行前に別途購入して・・・といったスタイルになります。あくまでも個人的な感覚ではありますが、格安SIMを活用すれば携帯料金は、一か月三十〜四十CHF程度であり、物価の高いスイスでは良心的な価格と言えると思います。

2 通信網を活用した決済サービス

日常生活を送る中で、携帯電話を活用した決済サービスを活用する機会もあり



SMSで届いたチケット



TPGアプリ画面

ます。とはいえ、日本のようにスイカ等の電子マネーは全くとって良いほど普及していません。そして今はやりのQRコード決済も、こちらで二年半生活してはありますが、見たことがありません。

唯一ジュネーブで活用されているのは、バスやトラムの乗車券をSMSで購入する、SMS決済です。具体的にはバス会社(TPG)が提供しているアプリを活用して、一回券や一日券、子供料金といっ

た自分が購入したいチケットを選択し、788の番号に☎といったSMSを送ることで、チケットが購入できます。かかった料金は携帯電話にチャージしている金額から自動で引き落とされ、乗車券はSMSとして携帯電話に届きます。言わずもがなですがレストラン等で一番活用されている決済は、クレジットカード決済です。十年程前、ヨーロッパで携帯電話の2Gサービス(GSM)が終了出来ないのは、GSM回線のみに対応しているクレジットカード決済端末が大量に出回っている為であるとの話を聞いて以来、レストラン等でクレジットカード決済をする時には端末画面の受信電波を見る癖がついているのですが、最近、ジュネーブ国内でも3GやLTEを受信しているクレジットカード決済端末が増えてきた印象を受けます。2Gサービスが終了する日もそう遠くないかもしれません。

3 各種イベントにおけるICTの活用

ジュネーブでは、マラソンなどのスポーツイベントも非常に盛んです。春から秋にかけての良い季節のみならず、氷点



エスカラード

旧市街のアップダウンの激しいコースを走るのですが、こちらのレースでもジュネーブマソンと同様のシステムが導入されており、レース結果が一時間以内に携帯のSMSに届きます。

さらにこのレースでは、電子タグの計

下の冬場も多くの人が街中を走っています。正直、スキー場でランニングするような環境だと思うのですが、皆さん帽子や手袋などをつけて元気に走っています。その為か、スイスは一年を通じて多くのマソン大会が開催されています。ジュネーブで開催される大きな大会としては、毎年五月に行われる「ジュネーブマソン」と、十二月に行われる「エスカラード（Escalade）・レース」があります。ジュネーブマソンは、レマン湖畔や街中の美しい景色を見ながら走ることができる、国際陸上競技連盟（IAAF）のブロンズラベルの認定も受けている大きな大会です。世界のトップランナーがしのぎを削るフルマソンを間近で見られる機会のみならず、一般部門もフルマソン、ハーフマソン、十kmマソン、ジュニアレース、リレーマソン、車イスマソン等、多くの種目が二日間にあたって開催され、老若男女が楽しめる一大イベントになっています。

そして、ここでも携帯電話等を活用したICTサービスが展開されています。参加者のゼッケンには電子タグが埋め込まれており、レース上には多くの計測

ポイントが設置されています。ランナーが計測ポイントを通過するとタイムが自動で計測されるシステムで、事前に登録をしておくレース終了後、一時間以内にSMSで記録と順位も含めたレース結果が届きます。

特に盛り上がるのが「リレーマソン」で、私も職場の同僚と毎年参加しているのですが、事前にアプリをインストールしてチーム登録をしておく、登録したチームのアイコンが地図上にプロットされ、リアルタイムで動きが確認できると、ライバルのチームを複数登録しておく、抜かれた・抜いたといった状況がリアルタイムで分かるので、非常に盛り上がりがあります。

十二月のエスカラード・レースは、ジュネーブで四百年の歴史を誇るお祭り「エスカラード」に併せて開催される一大イベントです。十六世紀初め、ジュネーブ支配を狙うフランスのサヴォイア家からの夜襲に見事勝利し、ジュネーブは独立を勝ち得ました。この戦いでは、夜襲に気づいた主婦（ロワイヨームおばさん）が煮えたぎった鍋を、城壁を登ってくる敵にかけて撃退したことから、毎年

測ポイントと複数の固定カメラが連動し、レース後には各自のレース状況を短くまとめた動画がアップロードされます。仕組みとしては複数の計測ポイントでの通過タイムをもとに、ランナーがカメラの前を通過したと思われる前後一定時間の映像を切り取り、それらを自動編集して作成されていることが予想できますが、オープニング映像や音楽も入った自分に特化した映像がダウンロード出来るとあって、これを目当てに参加する人も多いです。

4 おわりに

国際電気通信連合（ITU）等の国際会議に参加するため、毎年多くの総務省職員や通信関連企業の方々がジュネーブに出張します。十五年ほど前、私も標準化に携わっていた4Gが社会実装され、ICTの恩恵を多くの方々が享受しています。今ITUでは5Gに関する標準化の議論が活発に展開されており、自動運転や遠隔医療等、さらなる便利な世の中の実現を目指しています。

ジュネーブでは歴史的な建造物を大切に残す等、歴史を大切にする一面だけで



チョコレート（エスカラード）

この時期になると、この鍋をモチーフにしたチョコレートがあちこちに売られ、エスカラードの象徴になっています。

ジュネーブ市民にとって最も大切な日とも呼べるこの独立記念日を祝して行われるこのレースには、毎年、多くのランナーが参加します。コースはジュネーブ



Sionを自動走行する無人バス

なく、このように多くの国際機関で人類の未来に向けた最先端の議論が毎日展開されています。別の都市になりますが、スイスのシオンでは、世界に先駆けて二〇一六年から旧市街を無人バスが一般人を乗せて自動走行（実験走行）しており、古い歴史も大切に守りつつ、新しい事にも積極的に取り組むスイスという国の一面がうかがえます。スイスにはアルプスをはじめとする多彩な自然もあり、今後魅力的な国として発展していくことを期待します。

※本稿は筆者個人の責任で執筆したものであり、その内容は日本政府の見解を代表するものではありません。



冬のマッターホルン

クライネシャイデックから
望むアイガー(冬)



サレーヴ山からジュネーブを望む

世界の国から
ジュネーブ



ジュネーブのジュドー(噴水)



クライネシャイデックから
望むアイガー(夏)